

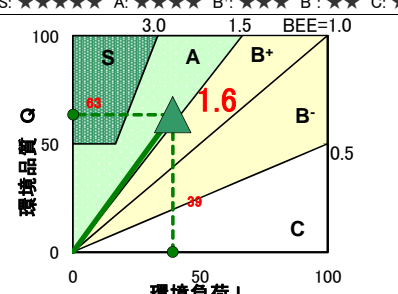
1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) 冷泉町ビル	階数	地上8F
建設地	福岡市博多区冷泉町465番	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	300 人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年12月 予定	評価の実施日	2017年12月11日
敷地面積	1,130 m ²	作成者	佐伯 憲二
建築面積	899 m ²	確認日	2017年12月15日
延床面積	6,987 m ²	確認者	壹岐 博



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★



2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

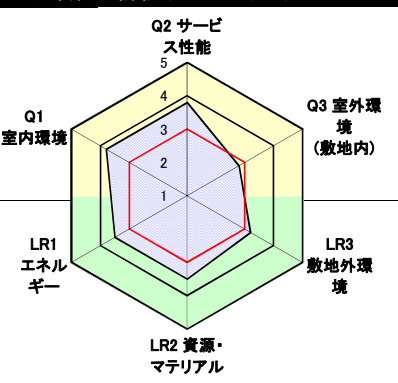
☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	92%
③上記+②以外の	92%
④上記+	92%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.8

音環境	3.6
温熱環境	3.9
光・視環境	3.5
空気質環境	4.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8

機能性	3.5
耐用性	3.7
対応性	4.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

生物環境	1.0
まちなみ	4.0
地域性	3.0

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

建物外皮の	3.0
自然エネ	3.0
設備システ	4.0
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

水資源	3.5
非再生材料の	3.4
汚染物質	3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

地球温暖化	3.3
地域環境	3.1
周辺環境	3.2

3 設計上の配慮事項		その他
総合 ・将来のニーズに対応できる仕様(可変性・更新性を考慮)。 ・災害時における機能維持(耐震性UP、中水槽・非常用発電機の設置によるBCP対応)。 ・省エネルギー・省資源への配慮。		0
Q1 室内環境 Low-Eペアガラスを用いて熱負荷低減に配慮する。 加湿機能付き空調機を設け調湿に配慮する。	Q2 サービス性能 階高、天井高を十分に確保し、ゆとりある執務空間とする。 基準階にはリフレッシュコーナー(一部喫煙室)を設ける。	Q3 室外環境(敷地内) 周辺の主要位置から屋上の設備機器類が見えないよう、景観へ配慮する。
LR1 エネルギー 全熱交換器、高効率空調機、LED照明器具を用いて省エネルギーに配慮する。	LR2 資源・マテリアル 再生水の利用、及び省水型機器を用いることで省資源に配慮する。	LR3 敷地外環境 敷地内に立体駐車場(別棟)を設け、その位置や台数において周辺道路に配慮する。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される